伊勢物語

梓弓　―　現代語訳　―

昔、ある男が、片田舎に住んでいた。男は、（都で）宮中勤めをしに（行く）と言って、（女と）別れを惜しんで行ってしまったまま、三年帰ってこなかったので、（女が）待ちくたびれていた頃に、たいそう懇ろに求婚してきた人に、今夜逢おうと（結婚の）約束を交わしたその日に、この（昔の）男が帰って来た。（男は）「この戸を開けてください。」と（言って、戸を）たたいたが、（女は）開けないで、歌を詠んで（男に）差し出したのだった。

あらたまの…三年もの間待ちくたびれて過ごしてきましたが、私はちょうど今夜、ある方と新枕を交わすのです。

と詠んで差し出したところ、（男は）

梓弓…長い年月を重ねて、私があなたを愛したように、新しい夫を愛して、むつまじく暮らしなさい。

と（男は）詠んで、立ち去ろうとしたので、女は、

梓弓…あなたの私へのお心はどうであっても、私の心は昔からあなたにお寄せしておりましたのに。

と詠んだけれども、男は帰ってしまった。女は、ひどく悲しく思い、（男の）後について追って行ったが、追いつくことができず、清水が湧いている所（まで行って、そこ）に倒れ伏してしまった。（女は）そこにあった岩に、指の血で書き付けた。

あひ思はで…私が思っているのに、私のことを思ってくれないで離れて行ってしまった人を、引き止めることができなくて、私の身は今、こうして絶え果ててしまうようです。

と書いて、その場で死んでしまった。